

「羽包み(はくくみ)」

第17号 平成30年12月1日発行

自立援助ホーム「湘南つばさの家」

〒253-0022 神奈川県茅ヶ崎市松浪 1-12-17

TEL・FAX 0467-58-6260 shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp

〔郵便局での振込みは〕 ゆうちょ銀行 振替口座 00200-5-81277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

〔銀行からの振込みは〕 ゆうちょ銀行 店名：029 当座 0081277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

やり残したこと

ホーム長 前川 礼彦

あなたにはやり残したことがあるだろうか。

もしあなたの取り巻く環境が、近く終わりを告げようとしているならば、残された日々をどう大切に過ごすだろうか。

長い人生の中でやり遂げたこと、やり残したこと、その歩みの中で辿りついた今この瞬間、拘ってきたこと、執着してきたこと、それらを置いてみたとき、肩の力が抜けることもある。やり残したことと考えれば、終わりが近づき、寂しく悲しくなるかもしれませんが、そうではありません。やり残したことを何らかの形で実現させたとき、まだ見ぬ世界、新しい一歩が始まるのです。

真剣に自分の生き方を、これからを見つめているだろうか。あまり考えず、忙しく、与えられた目の前にある日々を送ることも大事であり、責任を全うする事はとても大切な事である。活き活きと生きられるなら、それが良い。

より良い社会を創っていく。人の為に生きる。それが自身の幸せになるのならそれも良い。

自分の為だけに生きることは、心が乾く。心の渇きを潤す為に欲は続く。人生は自分の心を写し出す鏡のようなものだ。

生きている上で自分が果たす役割、それは時と共に変化をしていく。これこそ自分と納得出来るものをその時々で行えるならそれは幸せなことだ。

やはり私は、「いかに生きるか」という事を何歳になっても問い続けながら生きていくのだろう。いかに生きるか、人生は死ぬまで迷うのかもしれませんが。「これで良いのか、本当にそれで良いのか」と自問自答を繰り返しながら、深く追求し続けるのかもしれませんが。辿りつく答えは必ず変化があり、深さが続いている。生きることは死ぬまで探究し成長し続けていくことかもしれません。

私は湘南つばさの家に救われた。出逢った青年たちに、支援者関係者の方たちに。私の存在も少しはお役に立てたのであろうか。人には強さもあるが、弱い生き物だ。人はひとりきりだと生きる活力を失い、人と触れ合うことで生きるエネルギーを得ていく。人の存在の大切さをこの湘南つばさの家との出逢いの中で感じて頂けたら幸いです。いつも感謝を申し上げます。